

「2018年中国・浙江大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学経済学部4年 林浩太

①学習成果

今回の派遣以前にも中国に短期留学したことがあったが、改めて中国社会の発展速度の速さを実感した。前回の短期留学から帰国して以降、中国に関するニュースや雑誌記事をよく目にするようになったものの、引き続きメディアで報じられる「中国」は現時点ではまだどこか通り一遍であり、日本における「中国」像はまだ現実と乖離していると感じていた。

今回の派遣に参加し、国際理解・異文化理解は、身近でないことこそ印象や二次三次情報で語るのではなく、現地・現場に行き行って現物に触れて現実を捉える「三現主義」の姿勢が必要だということが身にしみて理解できた。また、将来大学院での海外留学を漠然と思い描いていたが、進学先として欧米にある大学だけでなく中国等アジアの大学も視野に入れて考えるようになった。

②海外での経験

プログラムのほか、現地浙江大学の学生たちが美味しい中華料理店に連れていってくれたり、また文化や社会に対する考え方などに関する活発な議論、卓球やバドミントン等のスポーツ交流を通したりして、単なるゲストホストの関係を越えてまさに「友人」として関係を深め合うことができた。

また、街中にシェアサイクルやEV（電気自動車）バスが見られ、また生活のあらゆる場面においてスマートフォンを用いたキャッシュレス化が進展する等、その利便性や先進性を享受して「古くから歴史ある中国」と「新しく胎動する中国」の両面に触れ、中国社会の発展・変化の速度を体感することもできた。

③プログラム内容

大きく分けてプログラムは中国語学習と訪問見学ツアーの2点に分けられる。

中国語学習においては、リーディングや口語表現など実践的な中国語を学べた。また各国からの留学生たちと中国語で交流し、中国語の鍛錬になるだけでなく世界各国の社会の様相や考え方の同異を知るに至った。

杭州市周辺の観光地の訪問や博物館の見学などにより杭州の文化（杭州は龍井茶や絹が有名です）や歴史を学ぶツアーが数多く提供され、中国文化・社会の現場の多様な側面に実際に触れることで見聞を広めた。

① 進路への影響

私は本プログラム終了後すぐに卒業・就職をする身ではあるが、今回の派遣は改めて将来どういうキャリアを歩んでいき、またどういうポジションからどのような社会貢献を目指すのかを自身で捉え直す良いタイミング・機会となった。漠然と日中の紐帯としての役割を担いたいという願望が、まずはビジネス、特に日中相互のオープンイノベーションの促進によって両国が互いに互いをリスペクトしあえる「人の暮らしにかかわる製品やプロジェクト」を作っていきたいという希望へと一段階具体化したことなど、進路の捉え方に具体化・選択肢のグローバルな多様化をもたらした。

以上